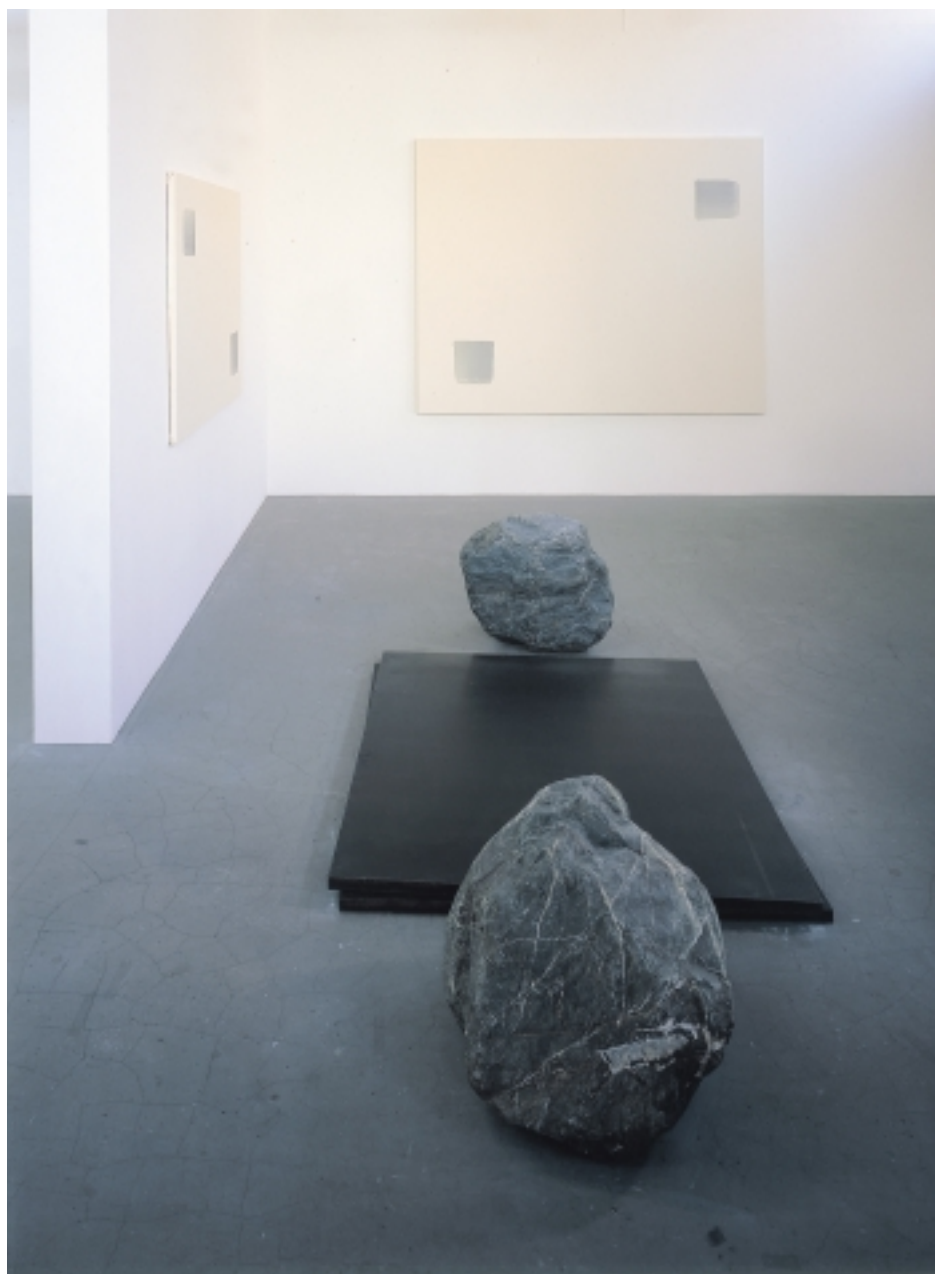


財団法人

日韓文化交流基金 NEWS

no.25

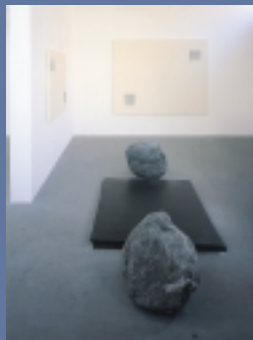


「研究者ディレクトリ」データベース公開へ
2003年度助成対象事業、訪日・訪韓フェローシップ採用決定
助成事業紹介 東洋政治思想史学会 国際学会議

目 次

- 2 ●巻頭エッセイ
李さん一家の「ソウルスタイル」
表紙使用作品および表紙作家紹介
- 3 日本における韓国・朝鮮研究
「研究者ディレクトリ」データベース公開へ
- 4 2003年度助成対象事業
「日韓共同未来プロジェクト」スタート
- 6 ●助成事業紹介
東洋政治思想史学会 国際学会会議
「東アジア近代史と政治リーダーシップ：
韓国・日本・中国の比較研究」 朴忠錫
- 8 2003年度訪日・訪韓フェローシッ
プ採用決定
- 10 日韓文化交流基金事業報告
- 12 ●フェロー研究紹介
日本と韓国における言語地図製作シ
ステムの現状 李相揆

表 紙 作 品



SCAI THE BATHHOUSE
展示風景(2002年)
撮影：安斎重男
協力：白石コンテンポラ
リーアート

表 紙 作 家 紹 介

李禹煥(リ ウファン)

1936年韓国慶南生まれ。1956年ソウル大学校美術大学を中退し、来日。1961年日本大学文学部哲学科卒業。1967年以降、前衛的な芸術表現を追求しながら国際的に活躍。「もの派」運動の柱として知られ、多くの国際美術展に出品、国内外の美術館などで個展。1969年に論文「事物から存在へ」で美術出版社芸術評論賞受賞。2001年高松宮記念世界文化賞受賞。前パリ国立エコール・ド・ボザール招聘教授、現在、多摩美術大学教授。

巻 頭 エ ッ セ イ

李さん一家の「ソウルスタイル」

佐藤浩司・国立民族学博物館民族文化研究部助教授

パンツをはいた猿といえば、パンツは人間のもつ文化のたとえですが、一国の大統領でも、首相でも、現代人ならたいていパンツくらい穿いています。ソウルに住む李源台さんはブリーフ党、局部に雄叫びをあげるキングコングの絵柄があるパンツは妻である金英淑さんの悪戯心でしょうか。氏はいつも奥さんの買ってくる衣服を身にまとい職場にかよいます。

李源台さん？ 昨年、大阪の国立民族学博物館でおこなわれた特別展「2002年ソウルスタイルー李さん一家の素顔のくらし」に家財道具一切切を提供してくれた家族といえおわりのかたもいるでしょう。李さん一家は夫婦と小学校にかようふたりの子供、それにおばあさんの5人家族、とくに有名でもなんでもない、ごくありふれた日常をおくるソウルの住人でした。展示では、彼らの住むアパートにあった物をすべてあるがままにならべました。下着はもちろろん、夫婦の交わしたラブレターや子供たちの通信簿、捨てられないでいる家財道具から冷蔵庫のなかの食べ物にいたるまで、その数およそ1万点。いったいなんのために???

日韓の相互理解とか文化交流とかいっても、あらかじめ垣根をつくっておいて、そのなかから手を差し伸べているようなもどかしさがあります。もはや私たちの身の回りにあるのは、地球上いたるところにありふれたものばかり。現実のほうがとくに垣根をつきぬけてすすんでいるのです。若者にとって、伝統を意識させるもののほうが特別で、わざとらしくて、背伸びをしているようにみえるのはどこも一緒でしょう。ことさら文化によるちがいを強調することにあまり大きな意味はないかもしれない。それ以上に、私たちは自由に個性を発揮できる環境を手に入れているのですから、いまは自分自身の隣人のことさえよくわからないのが現実です。それどころか、親の職場や子供の学校について、おなじ家族の者さえどれだけのことを知っているかあやしいものです。いくら国や民族のなんたるかがわかったところで、これではたったひとりの人間を理解することさえおぼつかないでしょう。

所詮、私たちは身近な知人をととしてしかその背景の社会にせまれないものです。

だから、たまたまめぐりあった李さん一家について徹底的に知りつくすことをこの展示はめざしました。社会のために個人が犠牲になったり、無理をしいられたりするのではなく、社会が個人に生きがいや勇気をあたえるものでありつづけられるように、そのように社会をとらええしたい。そんなメッセージを展示にはこめたつもりです。

ところで、キングコングのパンツは3年前に9000ウォンで購入したブランド品です。一家全員の持ち物とともに展示場の入口をかざってくれました。

さとう こうじ



展示風景

特別展「2002年ソウルスタイルー李さん一家の素顔のくらし」(国立民族学博物館、2002年3月21日～7月16日)を担当。専門は建築人類学。編著書に、『シリーズ建築人類学(世界の住まいを読む)』(全4巻、学芸出版社)ほか。現在、展覧会後の「李さん一家」の暮らしをとりあげる、「普通の生活」展がINAXギャラリーで開催中(名古屋・終了、東京・3月3日～5月23日、大阪・6月6日～8月22日)。

日本における韓国・朝鮮研究 「研究者ディレクトリ」データベース公開へ

日韓文化交流基金では、日本の韓国・朝鮮研究の活性化のために、研究動向や環境の調査を行っています。

2001年に実施した調査の結果をもとに、

2002年には『日本における韓国・朝鮮研究 研究者ディレクトリ』を刊行しました。

現在5月の基金ウェブサイトでのデータベース公開に向けて、作業を進めています。

近年の日本での韓国・朝鮮研究は、大学・大学院での研究科・コースの開設や、各分野の学会・研究会設立が相次ぎ、中堅・若手研究者のほとんどが韓国留学を経験するなど、質量共に拡大し、高度化・専門化の傾向を見せています。その一方で隣接する領域・地域の専門家にとっても、韓国・朝鮮の事例は無視できないものであり、比較・対照研究も盛んに行われています。また、一般のレベルでの韓国・朝鮮に対する関心の高まりは、学術研究の成果を社会に還元するのに大きな力となり、対象となるフィールドも確実に広がっています。

しかし、このような高度化・専門化と、一般化・分散化の一見相反する流れが共存する現状は、日本の韓国・朝鮮研究の全体像を捉えにくいものになっています。

このような問題意識に基づき、日本の韓国・朝鮮研究をめぐる新しい状況

を捉え、学術研究情報へのアクセスを高め、研究のさらなる発展に寄与することを目的として、「日本における韓国・朝鮮研究データベース事業」が開始されました。2002年に冊子体で刊行され、2003年5月のデータベース公開を予定している「研究者ディレクトリ」は、この事業の一環として作成されたものです。

「研究者ディレクトリ」は、2001年9月から12月にかけて行った調査票記入方式による調査の結果を基礎としています。メーリングリスト作成のための予備調査と、返送された調査票の記述により、現時点で冊子体ディレクトリには、日本をベースに研究活動を行っている、大学院博士課程以上の研究者1038名のデータが掲載されています。冊子体ディレクトリは2000部刊行し、掲載者および大学など研究機関に対して、ほぼ全て配布を終えました。

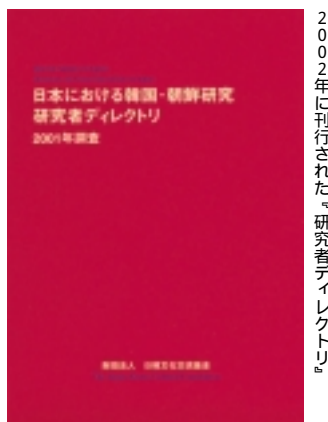
5月に公開されるデータベースは、調査結果と、ディレクトリ刊行後の更新を反映させたものになっており、1000名以上の研究者の所属および研究対象に関する情報と、5000件以上の研究業績のデータで構成されています。データベースは基金のウェブサイトに設置され、研究者の氏名、所属機関、研究テーマ、研究課題、研究業績に対する日本語・英語のキーワード検索が可能^(注)なほか、研究領域、対象年代、対象地域の項目はインデックス化されています。また、細分化した研究動向が把握しやすくなるよう、項目間のクロスリファレンスが自由に行えるように設計されています。

研究者のプライバシーに関わる個人情報とは、公開されるデータベースからは完全に除かれ、インターネットからのアクセスはできないように管理されています。また、所属機関の連絡先情報については、調査票でのチェック項目の記入に基づき、研究者本人の意思によって開示・非開示を選択できるようになっています。また、研究者データの登録と更新は随時行っており、最新の情報を反映するように心がけています。

今後は、「研究者ディレクトリ」データベースの公開を経て、内容の精緻化とインタフェースの改良を加えるとともに、研究文献に関するデータ集積・データベース構築の作業を並行して行い、2003年度中には「研究文献データベース」の公開を行う予定です。

「研究者ディレクトリ」検索画面イメージ

(注) 研究課題、研究業績は、英語のデータがない場合もあります。



2002年に刊行された『研究者ディレクトリ』

2003年度助成対象事業 「日韓共同未来プロジェクト」スタート

2003年度の助成事業の募集には、69件の申請があり、この中から、上半期・下半期あわせて34件への助成が決定いたしました。

今年度より、日韓両国政府による「日韓共同未来プロジェクト」実施の一環として、当基金の人物交流助成制度において、本プロジェクトの趣旨に合致する事業を、「日韓共同未来プロジェクト・青少年交流助成プログラム」として採用することになりました。

なお、2003年度下半期（10月～

2004年3月）実施分の事業については、7月1日から8月1日の期間にも募集を行います。

日韓共同未来プロジェクト

「日韓共同未来プロジェクト」は、ワールドカップ・サッカー大会日韓共催の成功と、その精神を後世に末永く語り継ぎ、継承するために、2002年7月の日韓首脳会談において実施が合意されたものです。年間1万人以上の交流を目標に、単なる数の増加にとど

まらない充実した内容の交流の模索を、日韓共同で行う事業です。その内容は、青少年交流、スポーツ交流、その他草の根交流事業への支援などからなり、当基金も積極的に協力していくこととなります。

今年度基金では、青少年や大学生が中心の、フィールドワークや交流行事に参加者の能動的な参与が求められるプログラムを重点対象として、本プロジェクト事業の採用を行いました。

日韓共同未来プロジェクト 16件

企画展「20代作家の挑戦IN&OUT」 日本・韓国（東京写真月間2003）	社団法人 日本写真協会	2003/5/30-6/15、 6/10-6/17	東京都写真美術館、新宿ニコンサロン、新宿コニカプラザ
韓国と日本の食文化交流事業2003 「南北コリアと日本のともだち展」	培材大学校観光文化大学外食・給食経営学専攻 「南北コリアと日本のともだち展」実行委員会	2003/6/27-7/2 2003/7/4-7/13、 10/9-10/12	高知・梶原高校 東京都児童会館、ソウル
細胞シグナリングに関する 第2回日韓若手交流セミナー	細胞シグナリングに関する 第2回日韓若手交流セミナー組織委員会	2003/7/14-7/16	九州大学病院キャンパス
韓国青年「2003年夏季 松江・日本文化講座」	財団法人 松江市国際交流協会	2003/7/14-7/24	島根・松江市および隣接市町村
利川実業高校・白山高校やきもの交流	白山高等学校PTA国際交流委員会	2003/7/22-7/29	神奈川・白山高校
2003年度 日韓青少年交流事業	社団法人 日韓経済協会	2003/7/23-7/30、 8/20-8/27	京都、東京、慶州、ソウルほか
幸・蓬萊の姉妹校・民族文化・サッカー交流事業	幸富秋日韓交流実行委員会	2003/7/29-8/4	大阪・和泉市立幸小学校、 人権文化センターほか
立教、延世、慶應リーダーシッププログラム	立教大学国際センター	2003/8/1-8/6	立教大学、山梨・清里
佐那河内小学校・三角山初等学校 ホームステイ国際交流学习	佐那河内小学校PTA国際交流運営委員会	2003/8/2-8/5	徳島・佐那河内小学校、 佐那河内村役場ほか
日韓大学（院）生の共同合宿ワークショップ 及びホームステイ	韓国外国語大学校日本語科学生会	2003/8/3-8/10	東京外国語大学、国立オリンピック記念青少年総合センター
第19回日韓学生フォーラム	第19回日韓学生フォーラム	2003/8/4-8/19	東京、京都
名護屋・萬徳小学生ホームステイ国際交流	名護屋小学校PTA	2003/8/18-8/22、 8/25-8/28	全南・潭陽郡、佐賀・鎮西町
日韓中学生 ホームステイ親善交流	大田原国際交流会	2003/8/21-8/25	栃木・大田原市
おおの大文字まつり	社団法人 韓国国楽協会大邱支会 韓国舞踊研究会	2003/9/28	福岡・大野城市大文字公園、 まどかびあホール
第2回ハンマダン in Senboku	韓日市民文化交流協議会 ナヌンセ	2003/11/7-11/11	大阪・堺市国際障害者交流会館

青少年・草の根交流 5件

第12回アジア環境・文化交流会 「アジア"麻"文化交流展」	特定非営利活動法人 アジア環境保全 センター	2003/6/7-6/9	東京芸術劇場
第6回日韓環境ギャザリング	全国青年環境連盟（エコリーグ）	2003/8/8-8/16	大邱
日韓教育交流シンポジウム	千葉県日本韓国・朝鮮関係史研究会	2003/8/25-8/28	光州
空飛ぶ車椅子の恩返し	空飛ぶ車椅子を応援する会	2003/10/1-10/6	愛媛・新居浜市、東京
日韓オルタナティブスクール 相互訪問プログラム	特定非営利活動法人 日本型チャーター スクール推進センター	2003/11/1-11/16	ソウル・ハジャセンター、 東京・国立オリンピック記念 青少年総合センターほか

シンポジウム・国際会議 3件

日本現代美術の争点とシステムの変化	アートソングセンター	2003/4/12	ソウル・アートソングセンター
日韓合同授業研究会第9回交流会福岡大会	日韓合同授業研究会	2003/7/24-7/27	福岡・二丈町周辺
河内飛鳥と武寧王シンポジウム	河内飛鳥と武寧王シンポジウム実行委員会	2003/9/21	大阪・LICはびきの

芸術交流 10件

韓国国立中央博物館所蔵 - 日本近代美術展	朝日新聞社事業本部大阪企画事業部	2003/4/3-5/11(東京) 5/20-6/29(京都)	東京藝術大学美術館、 京都国立近代美術館
金相秀作・演出「島・isle」東京公演 (日韓共同制作・演劇公演)	< 島・isle > 東京公演実行委員会	2003/4/16-4/19	国際交流基金フォーラム
日韓市民芸術交流 - 「祝祭の地」から	ノリバン	2003/5/3-5/5、 7/26	愛知・ハーモニー春日井、 名古屋市青少年文化センター
スタッフ塾 in ソウル	スタッフ塾実行委員会	2003/6/14-6/23	ソウル・シアターゼロ、 ソウル日本文化センター
「WEAR WARE」	ナンジョウアソシエイツ	2003/7/3-7/31、 8/15-9/13	ソウル・サムジースペース、 福岡・三菱地所アルティウム
日韓文化交流コンサート - 「春香」ファンタジア	日韓文化交流コンサート実行委員会	2003/7/5-7/6	横浜・関内ホール
月光舎 / アジア連続公演Ⅱ「ある晴れた朝、突然に……」 2003韓国公演 + 演劇シンポジウム + 日本語による ドラマリーディング	月光舎	2003/9/30-10/14	安山・ヘアンアートホール、 ソウル・明洞芸術劇場、 東崇舞台
2003「競演！津軽三味線vs長唄三味線」韓国公演	有限会社 古典空間	2003/10/13-10/19	ソウル、大田、釜山、済州
韓舞 白い"道成寺"・金利恵舞踊公演	有限会社 ブラネットアーツ	2003/10/28-11/4	東京・草月ホール、 福岡・イムズホール
第7回国際茶道連合大会	煎茶道文人華道清泉幽茗流	2003/11/29	センチュリーハイアット東京

東洋政治思想史学会 国際学術会議 「東アジア近代史と政治リーダーシップ：韓国・日本・中国の比較研究」

韓国・東洋政治思想史学会会長 朴忠錫

歴史的に韓・日・中3国は儒教文化圏に属する国として知られている。しかし、19世紀中葉の「西欧の衝撃」以来の東アジア近代史の道程を見ると、日本は韓国と中国に比べ、かなり異なった歴史的道程を歩んでいる。この時期に日本が時流に合わせて欧米列強に編入した一方で、韓国は日本の植民地に、中国は半植民地に転落している。もちろん、このように異なる歴史的道程を歩むことになったのは、この3国の地理的要因、そして欧米列強の政治・経済・軍事的利害関係などの外的要因を度外視できないが、基本的には3国の政治・経済・社会・文化的な背景とともに、この時期の主体的な対応様式がいかなるものであったかというのが大きな比重を占めていると考えられる。思うに、韓・日・中3国は、一方で歴史的に長期間儒教文化を共有してきたとは言え、他方で、特に日本は、政治・経済・社会・文化的な特異

性をもっていた。2002年12月13 - 14日の2日間にわたり、韓国・東洋政治思想史学会主催でソウル・外交安保研究院国際会議室で開催された今回の国際学術会議は、このような歴史的含意を背景としている。

この学術会議の大主題は、「東アジア近代史と政治リーダーシップ：韓国・日本・中国の比較研究」であり、開催地の韓国から8名、日本から4名、中国（台湾）から2名、計14名が発表し、日本側発表者と韓国側の同分野の専門研究者が討論に参加する方式をとった。

東アジア近代史分野とは、第2次世界大戦が終息して60年近く経とうとする今日に至っても、いささか論争を呼び起こしやすい研究対象であり、共有可能な、ある種の研究成果を導き出すのは決して容易なことではない。今回の学術会議では、東アジア近代史の道程と関連し、韓・日・中3国の主体

的対応に表れた発想様式に着目し、政治リーダーシップが近代史の道程にどのような影響を与えたかを比較検討するものであった。

今回の学術会議で基本的に試みたのは、従来の研究傾向が - もちろんこのような傾向が間違っていたというよりは、むしろ基本的なもので、当然のことだが - 韓・日・中のいずれの場合も、主として自国中心の近代政治思想史・政治史に力点を置く、言うなれば一国主義的なアプローチに力点を置いていたのに比べ、3国の近代史の道程を比較思想史的な観点から検討することにより、自国レベルの近代史認識の視野を広げるのみならず、従来の自国近代史研究に対する省察の契機とする、東アジア近代史に対する知的探求をより豊かにする、韓・日・中の東アジア近代史研究者の知的交流を活性化し、東アジア近代史への認識を共有する知的基盤を構築するとともに、結果的に東アジア文化発展に寄与する、ということであった。

このような趣旨のもと、今回の学術会議では、東アジア近代史における韓・日・中の政治リーダーシップを主題に、3国の研究者が比較の観点から論じる場を設けることとなった。これは、研究史の観点からも非常に意義深いことと考えるほかない。第一に、東アジア3国の政治思想史・政治史を主



日・韓・中の第一線の東洋思想史研究者が発表・討論を行った。

たる研究目的とする学会が中心となつて社会科学分野の研究者が集まり、韓・日・中の近代史を本格的に比較研究したということである。このような試みはおそらく戦後はじめてのことではないかと思われる。第二に指摘できるのは、共通の主題のもとに、この3国の発表者がそれぞれ自国の近代史過程における政治リーダーシップを中心に発表し、相互に論評し合う方式をとったということである。これは、3国の比較研究はもちろん、それぞれ自国の近代史のレベルでの特定の政治家、思想家を対象に、政治・思想リーダーシップの問題を中心に比較検討することによって、比較思想の観点からの韓・日・中3国の知的交流の新しい場を設けたということである。思うに、このような試みは確実にこの3国の研究者がそれぞれ自国の近代史に対する歴史的省察はもちろん、純粋に学問的なレベルでの知的交流を蓄積していくことによって、東アジア近代史に対する認識を共有する知的な絆をつくり、さらには東アジア文化の歴史的アイデンティティを構築するのに寄与するものと評価できる。

ここでさまざまな論点をひとつひとつ紹介することはできないが、特に今回東アジア3国の比較研究において学問的刺激を呼び起こしたのは、韓国と日本の場合、政治・思想的リーダーシ



学会関係者が多数参加し、関心の高さを示した。

ップにおいて儒教の存在様式が非常に対照的だったという点である。これは、儒教的リーダーシップの問題であるともいえるものだが、現実認識と実践の観点から見たとき、日本の場合は、平石直昭教授（東京大）が主題とした横井小楠や、渡辺浩教授（東京大）が主題とした阪谷朗廬に見られるように、儒教理論の読み替えを通じて西洋の制度・思想を受け入れていったのに対して、韓国の場合は正統・異端の思考方式をはじめ、儒教が相対的に価値理念的に血肉化しており、西勢東漸の新しい状況にタイミングよく自己転換できなかったのである。しかし、東アジア近代史におけるこのような儒教の存在様式の相違性についての比較論議とともに、従来の学界の視角での「儒教対近代」という観点を脱し、「儒教と近代」という、言い換えれば儒教を媒介とする近代への道程という新しい研究視角を提起したという点で、非常に意義深い学会だった。

韓国・東洋政治思想史学会は、2001年5月に韓国・日本・中国の政治思想史・政治史を専攻する研究者、大学教

授を中心として設立された学会で、まだ歴史は浅いが、非常に意欲的な研究熱と使命意識を持つ研究者の集まりで、より開かれた視野をもって、国内でのこの分野の研究はもちろん、日本と中国の同じ分野の研究者との共同研究、比較研究など、精力的な学術交流を推進し、今まで停滞気味であった東洋政治思想史・政治史研究を発展させていくことを目的としている。

今回の国際学術会議では、参加者の発表論文の質的水準が非常に高かったという評価、討論に参加した方の真摯な論評、この分野を専攻する多くの研究者が参席し、予想以上の盛況だったことは、今回試みたような国際学術会議を今後も継続して推進しなければならないということを物語っている。



パク チュンソク

1936年生まれ。韓国・梨花女子大学校名誉教授。著書に『韓国政治思想史』（三英社）、『国家理念と対外認識』（共編、慶應義塾大学出版会）、丸山真男著『忠誠と反逆』（共訳、東京大学出版会）ほか。

2003年度訪日・訪韓フェローシップ採用決定

2003年度の訪日・訪韓研究支援（フェローシップ）の採用者が決定いたしました。

基金フェローシップには、人文社会科学分野の日本研究を行う韓国の研究者を対象とした「一般」と、日本と韓国の歴史、両国関係史、朝鮮半島研究を行う、日韓双方の研究者を対象とした「歴史」の2種があります。

2003年度フェローシップの応募件数は、訪日90件（一般65件、歴史25件） 訪韓9件、そのうち採用は訪日が29件（一般19件、歴史10件） 訪韓が3件です。

日韓学術文化青少年交流事業（一般）

氏名 (가나다順)	所属・職位	研究テーマ (受入機関)	研究期間
具仁謨	東国大学校大学院国語国文学科博士課程	大正期訳語「文化」の成立と1920年代韓国の「文化的ナショナリズム」 (東京大学大学院総合文化研究科)	2003/4/1-2004/3/31
権起植	大統領秘書室国政状況局長	韓国政府樹立以降の対日政策の変遷過程 各政権別対日政策の比較研究 (静岡県立大学国際関係学部)	2003/5/1-2004/1/31
文明載	韓国外語大学校東洋語大学 日本語学科学科長・副教授	日本の説話文学に現れた東アジア文化の研究 (東洋大学文学部)	2003/3/1-2004/2/29
朴順愛	湖南大学校外国語学部日本語学科 国際館院長・助教授	日本の内閣府新設と内閣機能の強化 (東京大学大学院法学政治学研究科)	2003/3/1-2004/2/29
朴栄淑	釜慶大学校人文社会科学大学 日語日文学科副教授	上代における助詞「を」について (別府大学文学部)	2003/3/1-2004/2/29
朴載燮	仁済大学校人文文化学部 国語国文学科副教授	植民地期における出版環境と韓国近代文学 (九州大学大学院言語文化研究院)	2003/3/1-2004/2/29
朴天翼	大邱大学校経商大学経済貿易学部教授	市場経済制度と生産的福祉：韓国と日本を中心として (青山学院大学国際政治経済学部)	2003/3/1-2004/2/29
申琪栄	ワシントン大学政治学大学院博士課程	戦後日本と韓国における家族法改正運動の比較政治研究 (お茶の水女子大学ジェンダー研究センター)	2003/4/1-2003/9/30
安増煥	韓南大学校文科大学日語日文学科教授	文化的差異に基づく日韓両語の相対的言語類型 (北海道大学大学院文学研究科)	2003/3/1-2004/2/29
梁妍淑	慧田大学児童福祉科専任講師	日本の包括的な保育サービスの実践と課題： 少子化現象における保育支援政策と保育サービスの評価 (日本社会事業大学社会事業研究所)	2003/12/1-2004/7/31
延基栄	東国大学校法科大学学長・教授	日本の製造物責任法：日本の製造物責任法の発展と韓国法との比較研究 (早稲田大学比較法研究所)	2003/9/1-2004/8/31
李容相	韓国鉄道技術研究院企画調整室長	日本の産業システムの原型と変容 (関西大学商学部)	2003/9/1-2004/8/31
李定垠	国家人権委員会人権政策局 人権研究担当官	近代化過程における人権概念の形成に関する研究：韓国と日本の比較研究 (一橋大学大学院法学研究科)	2003/10/1-2004/9/30
李鐘允	韓国外語大学校商経大学貿易学科教授	アジア金融危機以降の韓・日経済の対応方式の差異と評価 (一橋大学大学院経済学研究科)	2003/4/1-2004/3/31
林敬鎬	社団法人地方議会発展研究院院長	日韓地方議会制度比較分析 (慶應義塾大学法学部)	2003/5/1-2004/4/30
全京秀	ソウル大学校社会科学大学人類学科教授	日本植民地主義と東アジア人類学 (東京大学大学院総合文化研究科)	2003/9/1-2004/8/31
全成燁	仁済大学校人文社会科学大学国際語 文学部副教授	現代日本語における文の構造の研究 (東北大学大学院文学研究科)	2003/8/1-2004/7/31
曹永薫	東義大学校法政大学社会科学部 社会福祉学科助教授	最近の日本の福祉政策に関する評価：公的介護保険を中心として (一橋大学大学院社会学研究科)	2003/6/1-2003/9/30
許南春	済州大学校人文大学東洋語学部 国語国文学科教授・学科長	日韓詩歌、民俗比較 (東京大学大学院人文社会系研究科)	2003/8/1-2004/7/31

日韓平和友好交流計画（歴史）

● 訪日フェローシップ

氏名 (가나다順)	所属・職位	研究テーマ (受入機関)	研究期間
朴天秀	慶北大学校人文大学考古人類学科助教授	栄山江流域と九州地域の前方後円墳からみた 5-6世紀韓半島と日本列島の相互作用 (熊本大学文学部)	2003/7/22-2004/7/21
裴錫満	釜慶大学校人文社会科学大学史学科 非常勤講師	近代在朝鮮日本人会社経営研究 (東京大学大学院人文社会系研究科)	2003/9/1-2004/8/31
李禧柱	西京大学校教養学部助教授	朝鮮時代のソンビ(士)精神(儒者の道)と徳川時代の 武士道についての比較分析:特に君臣道徳を中心に (東京大学大学院法学政治学研究科)	2003/3/1-2004/2/29
張東翼	慶北大学校師範大学歴史教育科教授	日本古代・中世資料にみえる高麗王朝に関する記事の研究 (京都大学大学院文学研究科)	2003/9/1-2004/8/31
張舜順	全北大学校人文科学大学史学科 非常勤講師	前近代東アジア「外国人居留地」の比較研究: 朝鮮の草梁倭館と近世日本の出島を中心に (九州大学大学院人文科学研究院)	2003/8/1-2004/7/31
鄭仁盛	東京大学大学院人文社会系研究科 博士課程	発掘資料から見た楽浪郡治の性格: 東京大学文学部所蔵の楽浪土城出土遺物の分析を中心に (東京大学大学院人文社会系研究科)	2003/4/1-2004/3/31
崔完奎	圓光大学校人文大学人文学部副教授	日本弥生時代墳丘墓と韓半島西南部地域馬韓墳墓との比較研究 (立命館大学大学院文学研究科)	2003/3/13-2003/9/12
河政植	崇実大学校人文大学史学科教授	内修外攘と尊皇攘夷:朝鮮と日本における 阿片戦争・太平天国情報に対する認識と対応 (京都大学大学院文学研究科)	2003/4/1-2004/3/31
韓盛旭	松広寺聖宝博物館学芸研究室長	日本遺跡出土の高麗青磁研究 (国立歴史民俗博物館)	2003/10/21-2004/10/20
韓泰文	釜山大学校人文大学国語国文学科副教授	通信使の路程に反映された日韓文化交流の様相と特徴 (岡山大学文学部)	2003/8/20-2004/8/19

● 訪韓フェローシップ

氏名 (50音順)	所属・職位	研究テーマ (受入機関)	研究期間
池内敏	名古屋大学大学院文学研究科教授	19世紀の東アジア史と日朝関係 (檀国大学校東洋学研究所)	2003/11/3-2004/11/2
浮葉正親	名古屋大学留学生センター助教授	韓国における巫俗の変容に関する文化人類学的研究 (中央大学校日本研究所)	2003/10/1-2004/3/31
宮本悟	神戸大学大学院法学研究科博士課程	金正日時代における北朝鮮の軍事政策: 冷戦構造との関係を中心に (世宗研究所)	2003/4/1-2004/3/31

所属機関・役職は申請時のものを掲載しています。

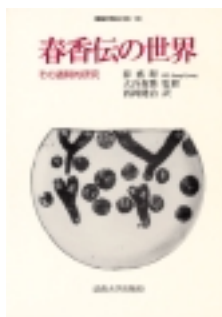
韓国図書翻訳出版事業 「韓国の学術と文化」シリーズ新刊

以下の図書が韓国図書翻訳出版事業の一環として法政大学出版局から刊行されました。

薛盛璟著、大谷森繁監修、西岡健治訳 『春香伝の世界 - その通時的研究』

民族の神話を原型にもち、17世紀後半にパンソリ劇の代表作として開花した 春香伝 は、歌謡、小説、舞踊をはじめ映画、オペラ、ミュージカル等々へと発展し、今なお韓国を代表する伝統芸術として多くの人々に親しまれている。時代により変異するさまざまなテキストを詳細に分析・比較検討し、時代思潮の影響を受けつつも、その文芸性をより洗練させていくプロセスを跡づけ、民族の古典として定着するまでの経緯を解明する。200年余にわたって絶え間なく成熟と変貌を繰り返してきた 春香伝 の時代を超えた

生命力の源泉とその魅力の秘密を探り、民族の伝承が多くの人々の手によって再創造され、豊かな総合芸術へと発展していく過程を実証的に明らかにする。



図書出版助成 対象図書刊行

金貞任著『高齢社会と家族介護の変容』(法政大学出版局、2003年2月刊行)

日本と韓国は欧米諸国をしのぐ速さで高齢化社会に移行した。しかし両国では、儒教的な倫理や伝統的な孝行観が根強く、要介護高齢者の介護は主として配偶者や子どもによって担われてきた。本書は、その家族による介護がい

かに負担となり、どのような対処を強いられているかを、ソウルと東京での統計・事例調査によって明らかにする。



金科哲著『過疎政策と住民組織 - 日韓を比較して』(古今書院、2003年3月刊行)

日本では1960年代から、韓国では70年代から社会問題となった「過疎」の時空間的変遷とその要因、政府・自



訪日団の日本文化体験

訪日団

団体名	計	男	女	期間	団長
釜山日本語弁論大会入賞者等	20	5	15	1/21-1/30	呂博東 啓明大学校国際学部日本学科教授

訪韓団

団体名	計	男	女	期間	団長
大学生(3)	20	9	11	3/4-3/13	藤本幸夫 富山大学人文学部教授
大学生(4)	20	7	13	3/18-3/27	筏津成一 鳥取大学教育地域科学部教授

治体の過疎対策を追うとともに、両国の社会経済環境の変化および住民組織の対応について、江原道や長野県などでの現地調査をもとに比較考察する。



太田修著『日韓交渉 - 請求権問題の研究』（クレイン、2003年3月刊行）
戦後の日韓関係を規定したともいえる

る日韓基本条約の中の「請求権交渉」を戦後の冷戦とナショナリズムの渦中にあった日韓関係史の視点、民間の補償問題の視点、日本の植民地支配の清算と新しい関係の始まりの視点、今後の日韓関係の将来の展望という各視点から考察する。



図書センター 平成15年度臨時休館のお知らせ

図書センターは、下記の日程で臨時休館を行います。

2003年5月28日(水)～5月30日(金)
(館内整理)

2003年9月24日(水)～9月30日(火)
(蔵書点検&館内整理)

回数と期間は変更の可能性があります。

報告書

以下の事業の報告書が完成しました。
第一回日韓歴史家会議報告書（2001年11月実施）

韓日文化交流基金 日本文化視察団

当基金の韓国側カウンターパートの韓日文化交流基金の第16次日本文化視察団が、1月16日から20日まで日本各地の視察を行いました。1月20日には、藤村正哉日韓文化交流基金会長や理事多数出席のもと、ホテルオークラで歓迎晩餐会が開かれました。

日程

1/16	松江空港着 松江周辺視察
1/17	出雲大社ほか視察 大阪市立東洋陶磁美術館、大阪城ほか視察
1/18	京都・奈良視察
1/19	箱根視察
1/20	日本のマスコミ関係者との懇談会 「最近の韓半島情勢と日本の政治動向」 日韓文化交流基金会長主催歓迎晩餐会
1/20	帰国

参加者

李相禹	韓日文化交流基金理事長、翰林大学校総長
姜基遠	弁護士
金英秀	西江大学校政治外交学科副教授
朴振	国会議員
呉元培	東国大学校美術学部教授(画家)
尹賢淑	翰林大学校社会福祉大学院長
李泰元	韓日文化交流基金理事
印輔吉	デジタル朝鮮日報社長
陳耀娟	三星美術教育研究所教授
崔完圭	慶南大学校北韓大学院教授
金秀雄	韓日文化交流基金理事・事務局長

歓迎晩餐会



日本と韓国における言語地図製作システムの現状

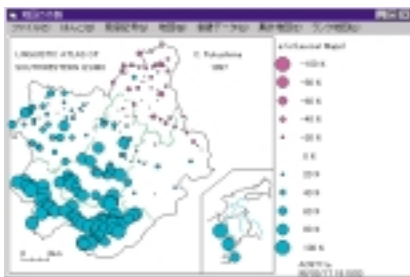
李相揆 慶北大学校教授

言語現象の地理的分布記述を目標としている地理言語学では、言語地図を媒介に収集した資料を分析・解釈することが重要です。ある言語の地域的変種を地図に記入する作業を通じて地域的分布を発見し、その説明から時間の経過にともなう地域的変種の変化の要因の推定が可能になります。

日本では明治時代から国語調査委員会を設置して調査結果を出版するなど、西欧の地理言語学とともに発展してきました。最近では、方言資料のデータ構築から言語地図製作まで、全ての過程が電算化される段階となりました。日本の国立国語研究所における、『日本言語地図』(1966～1985年)と、『方言文法全国地図』事業(1989～2005年)を通じた技術蓄積により、言語地図電算化技術は世界最高水準に遜色ありません。また、同研究所のホームページに公開された大学研究室単位の数百年にのぼる言語地図化作業の成果からも、その技術水準が把握できます。

国立国語研究所「方言文法全国地図」で活用している言語地図の技法は、パソコンの汎用描画ソフトを活用して、白地図上に方言形を記号化して表した層をいくつか重ねて言語地図を描くと

【図1】SEALで製作された言語地図例



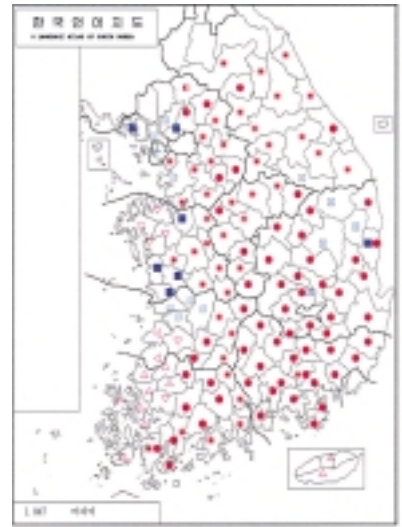
いうシステム(LMS: Language Map System)です。一方、個人研究者が開発したシステムもあります。1983年に福岡秩子・福岡祐介が、パソコンで動作する言語地図製作システムであるSEAL(System of Exhibition and Analysis of Linguistic Data)を開発し、その後数回の修正補完を経ています(【図1】参照)。特に、後者はパソコンを活用して方言データを処理分析し、言語地図まで製作する非常に有用なプログラムです。

2003年現在、SEAL 6.2E版は、英語版Windowsで動作し、今後多国語の言語資料の情報処理が可能な方向へアップグレードされる見込みです。このプログラムは、多様な言語地図と精密な象徴記号を自由に描き出し、語彙実現頻度を反映した解析地図まで描くことができる、非常に優れたプログラムであると評価できます。一方、韓国ではワープロのデータ差込機能を活用して言語地図を描く水準にとどまっています(【図2】参照)。

筆者は今回日韓文化交流基金の支援により、東京大学大学院において、LMS技法と、SEAL 6.2E版を韓国語の環境に適用させるための研究を進めています。

しかし、このようなシステム開発が、個別国家や個人研究者の研究室単位で進められると、さまざまな人的・経済的浪費が引き起こされます。現在、漢字(簡体字)処理問題が解決された、より有用なプログラムを標準化し、韓・中・日三国が共用できる言語

【図2】韓国で製作された言語地図例



地図製作プログラム開発のため、協力が必要だと考えます。この三国は歴史的に漢字文化圏に属し、共用可能な言語地図システムの標準化作業は大きな相乗効果を収めることができるでしょう。

そのような点で日本は国内プロジェクトにのみ没頭するのではなく、三国間の学術交流をリードし、開発された技術の移転を積極的に推進する必要があります。国立国語研究所において、国際学会会議や研究者交流などを通じ、共用できる標準化された言語地図製作方法が提案されることを期待しています。

イ サンギョ

現在基金フェローシップで東京大学大学院客員研究教授として日本に滞在中。韓国精神文化研究院研究員、蔚山大学校助教授を経て現職。著書に、『方言学』(学研社、1999年)、『慶北方言文法研究』(博而精、1999年)、『慶北方言辞典』(太学社、2000年)、『文学と方言』(共著、亦案、2001年)、『国語方言学』(学研社、2003年)がある。